

<報 告>

老人の外来診療における疾病別医療費に関する統計的研究

Statistical Research Concerning Medical Treatment Expense According to Disease in Coming from Outside Diagnosis and Treatment of Elderly Person

兵 頭 明 和*

Terukazu HYODOU

キーワード : 老人医療費、外来医療費、統計的研究

Key Words : Elderly person medical treatment expense, Coming from outside medical treatment expense, Statistical research

I. はじめに

老人医療における診療内容の実態についての調査として、日本全国については、「社会医療診療行為別調査」(厚生省大臣官房統計情報部)、「国民健康保険医療給付実態調査」(厚生省保険局)、「診療状況実態調査(平成6年度)」(厚生省保険局)(いずれも抽出調査)が主なものであり、例えば薬剤については、

・社会医療診療行為別調査では、平成5年調査までは、薬剤の総量のみを調査しており、薬剤の内容は不明である。

・国民健康保険医療給付実態調査では、調剤報酬明細書の薬剤費(薬剤分類別)の分析を行っている。

・診療状況実態調査(平成6年度)では、院外処方された入院外レセプトと調剤報酬明細書を同時に調査し、薬剤費は疾病と薬剤分類別のクロス分析を行っている。

本研究は、T県K市及びK県Z市の市町村国保の平成5年5月診療分の60歳以上の入院外の全レセプトデータを用いて、診療行為における実態にもふれながら、両市の薬剤使用の実態及びその差について分析を行ったものである。

前述したように、全国ベースでの薬剤使用の実態調査はあるが、詳細な内容に立ち入ろうとすると、全国ベースではサンプル数が膨大になりすぎてコスト面からも困難となり詳細なデータはとれないため、本研究では地域を限定し、そのかわり詳細なデータを取得するという方法をとっている。

ある地域単独では、その実態についての評価が困難

であることから、医療費の高い地域であるZ市と低い地域であるK市の2地域を比較しながら、実態を探るという方法を用いた。

老人医療の実態を見るとの観点からは、70歳以上とすべきところであるが、K市、Z市についての分析としてはサンプルが少なくなりすぎることと、60歳以上であれば60歳から69歳の4割は退職被保険者等で、準老人医療組ともみられるとの理由から60歳以上のデータで分析を行っている。

II. 老人医療に関する統計的実態分析の手順

分析の手順は次のとおりである。

まず、K市及びZ市のレセプトデータのうち薬剤料の算定されていないレセプトを分析対象から除外する。

次に、レセプトに記載されている、傷病数をカウントし、具体的な症病名を区分する。レセプトを用いた通常の調査における傷病の扱いは、点数配分の最も大きい傷病名を主傷病とし、1枚のレセプトに1つの傷病を対応させ、他の傷病名は調査対象としないというものである。このようにすると、データとしては扱いやすくなる反面、一般にレセプトには複数の傷病が記載されており、レセプトの治療内容がすべて選ばれた主傷病に対応しているとは限らないため、主傷病とレセプトの内容との対応が必ずしも明確な対応とはいえないこととなる。特に、入院外においては傷病数とレセプト1件当たり点数との間には、強い相関があるため、レセプト記載の傷病数を併せて調査しないと、主傷病毎のレセプト1件当たり点数が無意味なものとな

所 属 : *国際医療福祉大学 保健学部(統計学)

受 付 : 1996年11月1日

る恐れがある。

さて、レセプトの点数については、診療行為による点数と薬剤(医薬品)によるものに分け、種類・点数を算定する。

以上の基礎情報のもとで薬剤を用いているレセプト全体について、

- ・疾病大分類別、薬剤使用量の比較
 - ・疾病B分類別、薬剤使用量の比較
 - ・疾病数階級別、薬剤使用量の比較
 - ・診療実日数階級別、薬剤使用量の比較
- を行い、薬剤の使用状況を分析し、最後に
- ・平均医療費の格差の要因分析
- を行い薬剤使用による格差を計量化した。

Ⅲ. 老人医療に関する統計的実態分析の結果

1. 薬剤を使用しているレセプトのマクロ比較

薬剤を使用しているレセプトの割合は、K市では64.8%、Z市では95.4%とZ市のほうが高い。これはK市において医薬分業が進展していることや、薬剤を使用しないケースが多いためと考えられる。

次に、レセプト1件当たりのマクロ比較を行う。医療費の分析において、対象者1人当たり医療費は、対象者1人当たり件数×1件当たり医療費と分解することができるが、概念上は対象者1人当たり件数は受診の発生確率で、1件当たり医療費は受診した場合の医療費ととらえることができ、特に受診という条件のもとでの統計である。

このことを保険者や被保険者の立場と医療提供者の立場という視点からみると、対象者1人当たり医療費や対象者1人当たり件数など対象者1人当たりを意識するのは、被保険者総体に対する医療費を問題とする保険者の立場とみることができ、1件当たり医療費など1件当たりを意識するのは、受診した場合だけを問題にしている点で医療提供者の立場とみることができよう。

医療費の分析としてはいずれの立場も重要であるが、医療法の改正や診療報酬改定による医療機関の分化政策や新ゴールドプランなどの基盤整備にみられるように、最近では医療の提供者に焦点をあてた議論が多くなっており、医療費の適正化の視点からも医療の提供者の面からみた医療費分析すなわち医療費供給面の解析は早急に充実すべき重要課題である。

このように考えるとレセプト1件当たりのマクロ比較は供給面からみた医療費の分析の1つとして位置づ

けることができる。

薬剤料の算定されているレセプトに限定して1件当たり点数を比較すると、1件当たり点数はZ市が3割近く高く、その差5200円の71%にあたる3700円の差は薬剤料(医薬品)によることがわかる。

なお、レセプト1件当たり点数に占める薬剤料の割合は、K市では45.6%、Z市では51.3%となっておりZ市は5割を超えている。

1件当たり薬剤料を、

1件当たり薬剤の種類×1種類当たり点数に分解してみると、1種類当たり点数はZ市のほうが15%ほど低いが、1件当たり薬剤の種類はK市3.4に対し、Z市5.8と7割も多くZ市の薬剤料が多い要因となつている。

2. 疾病分類別、薬剤使用量の比較

薬剤料の算定されているレセプトを、レセプトに記載されている傷病名の属する疾病区分(大分類、B分類)に分けて、各疾病区分毎の薬剤料を分析する。

レセプトに記載されている傷病名は複数であることから、異なる疾病区分に属する傷病名の記載されている1枚のレセプトは疾病区分毎に1件ずつカウントされ結果として重複カウントになることに留意されたい。

疾病を大分類区分でみると件数が最も多い大分類はK市、Z市ともⅦ循環系の疾患であり、2番目に多いのはK市、Z市ともⅨ消化系の疾患、3番目に多いのはK市、Z市ともⅩⅢ筋骨格系及び結合組織の疾患であり、算定件数の割合は、Ⅶ循環系は48.1%、52.6%、Ⅸ消化系の疾患は33.7%、42.2%、ⅩⅢ筋骨格系及び結合組織の疾患は30.3%、39.9%となっており、Z市の算定件数の割合が高い。

1件当たり薬剤点数を構成する1件当たり薬剤の種類と1種類当たり点数を疾病大分類別にみると、1件当たり薬剤の種類についてはK市では3~4であるのに対し、Z市では5~8と多く、1.6~2.1倍となっている。

一方、1種類当たり点数はK市がZ市より最大30%程度高く、Z市は低めである。

結果として、どの疾病区分においてもZ市の1件当たり薬剤点数は高いが主因は1件当たり薬剤の種類であることがわかる。

なお、大分類やB分類の各区分の件数割合については、従来の主傷病1つだけを選択する方式でみると、レセプト上には記載されていても、点数のウエイトが相対的に低いなどの理由でカウントされない疾病があり、疾病に関する情報としては不十分ということがお

こりえるが、本研究では点数のウェイトの大小にかかわらずレセプト記載の全疾病をカウントしているため、疾病の発生状況を正確にとらえているといえる。

3. 疾病数階級別、薬剤使用量の比較

レセプト1件当たり疾病数はK市で3.71、Z市で4.71であるが、疾病数階級別にレセプト件数割合をみると、K市では疾病数2が最も多く19.6%、次いで疾病数1が多く18.2%、3番目が疾病数3で18.2%となっており、3以下で56.0%と半分以上を占めている。

Z市では疾病数2が最も多く16.0%、次いで疾病数3が多く15.8%、3番目が疾病数4で14.3%となっており、疾病数3以下で42.9%、疾病数4以上で57.2%となっている。

疾病数階級別に1件当たり薬剤の種類をみると、平均ではK市で3.42、Z市で5.83であるが、件数が10件を超える疾病数区分までは、K市においてもZ市においても、ほぼ疾病数が増えると1件当たり薬剤の種類が増加することとなっており、どの疾病数階級においてもZ市のほうが1件当たり薬剤の種類が多い。

疾病数を説明変数とし、1件当たり薬剤の種類を被説明変数とする回帰分析を行うと、

K市について疾病数14までとると、

$$1 \text{ 件当たり薬剤の種類} = \text{疾病数} \times 0.4493 + 1.7458$$

Z市について疾病数17までとると、

1件当たり薬剤の種類 = 疾病数 × 0.7688 + 2.2287 となっており、寄与率はそれぞれ0.896、0.984と大変よくあてはまる。

次に、薬剤1種類当たり点数はサンプルの少ない疾病数16、17のほか、疾病数12を除き、Z市はK市の60%から90%程度となっている。

4. 診療実日数階級別、薬剤使用量の比較

レセプト1件当たり日数はK市、Z市それぞれ2.94日、3.16日であるが、日数階級別にレセプト件数の割合をみると、日数1日が最も多くそれぞれ36.4%、32.2%で、日数が1、2、3、…9日までは、件数割合が単調に減少し、1日から3日まででK市は81.3%、Z市は75.5%を占める。

日数階級別に1件当たり薬剤の種類をみると、日数の増加による増加傾向はみられず、10件以上ある階級では、K市では13日が最も多く6.0、Z市では21日が

最も多く13.2となっておりK市とZ市では、どの日数においてもZ市が多く、特に日数22日で5.8倍、日数16日で4.2倍となっている。

薬剤1種類当たりの点数は、件数の大部分を占める5日まではK市がZ市より高いか同程度となっているが、6日以上になると、23日までに6個の階級でK市がZ市より高く、残りの12個の階級では逆にZ市が高くなっている。

5. 平均医療費の格差の要因分析

平均医療費(1件当たり医療費)の格差は、特定の要因のみではなく、さまざまな要因が複雑にからみあって生じていると考えられる。しかし、多数の要因を同時に分析することはデータ数の関係等でむしろ適当ではないため、本研究では、レセプトから分析可能な以下の要因について2次元までの分析を行った。

- ・ 性別構成比率
- ・ 年齢別構成比率
- ・ 疾病B分類(主要疾病)別構成比率
- ・ 疾病数別構成比率
- ・ 日数別構成比率
- ・ 診療行為数別構成比率
- ・ 行為平均額(行為単価)別構成比率
- ・ 医薬品種類(医薬品数)別構成比率
- ・ 医薬品平均額(医薬品単価)別構成比率

「各要因」の影響の算出には物価指数等で用いられるいわゆるフィッシャーの算式に準じた方法を用いた。

例えば、「平均医療費」は「疾病数別の平均医療費」を「疾病数別の件数比率」で加重平均したものであり、疾病数の構成比率が高いほど平均医療費は高くなる傾向がある。

疾病数別の件数比率(重み)が変わらないとした場合の平均医療費の指数は「疾病数別構成比率の要因以外」の影響をあらわすと考えられる。

また、全体の比をこの指数で除したものは「疾病数別構成比率の要因」の影響をあらわすと考えられる。

各要因単独の影響をみると、平均医療費の格差(比)1.291に対し、「医薬品種類別構成比率」1.658、「診療行為別構成比率」1.239、「疾病数別構成比率」1.199などが大きく、「医薬品平均額別構成比率」、「行為平均額別構成比率」などは格差を縮小する結果となっている。

なお、平均医療費を医薬品額のみとした場合も同様の傾向がみられる。

IV. 考察

老人医療の薬剤投与の実態をK市とZ市を対比させながら分析したところによれば、レセプト1件当たり点数の差の6～7割は薬剤料によることが判明した。

その薬剤料の差は、薬剤の種類数の差によるものであり、1種類当たり点数はむしろ格差を縮小していることがわかった。

よくいわれることに、高薬価の薬剤を投与するために、薬剤料が高いということがあがるが、今回の事例では事実としては異なっていることとなる。

薬剤数は疾病構造（疾病パターン、疾病数等）のちがいによっても、異なると考えられるが、今回のケースでは薬剤数の全格差1.706倍に対し、疾病構造が同じと仮定しても、なお1.476倍と、5割近い格差があることになる。

薬剤数、診療行為数が平均医療費に与える影響も大きく、今回のケースでは平均医療費の全格差1.291倍に対し、疾病構造が同じと仮定した場合の格差1.148倍のうちのほとんどが薬剤数、診療行為数によると考えられる。

同じ疾病でありながら、なぜ、薬剤使用等にこのような格差が生ずるのかの理由の解明と、全国規模での実態の分析が今後の課題と考えられる。

(本研究は平成7年度厚生省厚生科学研究費補助金による研究事業の成果の一部を使用している。)

【参考文献】

- 1) 厚生省大臣官房統計情報部. 平成5年社会医療診療行為別調査 (1995).
- 2) 厚生省保険局. 平成5年度国民健康保険医療給付実態調査報告 (1995).
- 3) 厚生省保険局. 診療状況実態調査報告 (平成6年度) (1995).

表1 分析データのマクロの状況

全数		
	K市	Z市
実人員	5551	5397
件数 (枚数)	6703	6542
実日数	17949	20257
傷病数	24988	30196
合計点数 (円)	96013460	147194350
診療行為	47097	61466
点数 (円)	60468190	72991810
医薬品	14842	36379
回数	230836	508234
総単位数	656460	1515894
点数 (円)	35545270	74202540
再掲 薬剤料有レセ		
	K市	Z市
実人員	3764	5224
件数 (枚数)	4341	6238
実日数	12776	19723
傷病数	16138	29389
合計点数 (円)	78012460	144702930
診療行為	33053	59605
点数 (円)	42467190	70500390
医薬品	14842	36379
回数	230836	508234
総単位数	656460	1515894
点数 (円)	35545270	74202540
再再掲 高血圧 (症) を含むレセ		
	K市	Z市
実人員	959	1680
件数 (枚数)	1018	1737
実日数	2320	6094
傷病数	4560	10861
合計点数 (円)	20639100	54358220
診療行為	8189	18857
点数 (円)	9993270	23332400
医薬品	4086	12222
回数	88934	227144
総単位数	188116	630197
点数 (円)	10645830	31025820

表2 レセプト1件当点数の比較

全数				
	K市	Z市	差	比
1件当点数 (円)	14324	22500	8176	1.571
診療行為	9021	11157	2136	1.237
1件当種類	7.0	9.4	2.4	1.337
1種類当点数 (円)	1284	1188	-96	0.925
医薬品	5303	11342	6040	2.139
1件当種類	2.2	5.6	3.3	2.511
1種類当点数 (円)	2395	2040	-355	0.852
1種類当回数	15.6	14.0	-1.6	0.898
1回当点数 (円)	154	146	-8	0.948
1回当単位数	2.8	3.0	0.1	1.049
1単位当点数 (円)	54	49	-5	0.904

再掲 薬剤料有レセ

	K市	Z市	差	比
1件当点数(円)	17971	23197	5226	1.291
診療行為	9783	11302	1519	1.155
1件当種類	7.6	9.6	1.9	1.255
1種類当点数(円)	1285	1183	-102	0.921
医薬品	8188	11895	3707	1.453
1件当種類	3.4	5.8	2.4	1.706
1種類当点数(円)	2395	2040	-355	0.852
1種類当回数	15.6	14.0	-1.6	0.898
1回当点数(円)	154	146	-8	0.948
1回当単位数	2.8	3.0	0.1	1.049
1単位当点数(円)	54	49	-5	0.904

再再掲 高血圧(症)を含むレセ

	K市	Z市	差	比
1件当点数(円)	20274	31294	11020	1.544
診療行為	9817	13433	3616	1.368
1件当種類	8.0	10.9	2.8	1.350
1種類当点数(円)	1220	1237	17	1.014
医薬品	10458	17862	7404	1.708
1件当種類	4.0	7.0	3.0	1.753
1種類当点数(円)	2605	2539	-67	0.974
1種類当回数	21.8	18.6	-3.2	0.854
1回当点数(円)	120	137	17	1.141
1回当単位数	2.1	2.8	0.7	1.312
1単位当点数(円)	57	49	-7	0.870

表3 疾病大分類別薬剤料

大分類	種類K/件	種類Z/件	比	点数K/種	点数Z/種	比	4341	6238
							件数K	件数Z
01 I 感染症及び寄生虫症	4.36	7.22	1.655	2193	2315	1.055	318	643
02 II 新生物	4.41	7.19	1.631	4422	3095	0.700	411	545
03 III 内分泌、栄養及び代謝疾患並びに免疫障害	4.23	6.96	1.647	2919	2650	0.908	979	1711
04 IV 血液及び造血器の疾患	4.54	8.20	1.807	4508	3069	0.681	165	352
05 V 精神障害	4.35	7.57	1.739	2581	2329	0.902	210	316
06 VI 神経系及び感覚器の疾患	3.16	5.74	1.816	2208	1565	0.709	1098	1987
07 VII 循環系の疾患	4.00	6.98	1.747	2620	2445	0.933	2087	3280
08 VIII 呼吸系の疾患	4.94	7.96	1.609	1896	1820	0.960	774	1364
09 IX 消化系の疾患	4.62	7.55	1.635	2720	2397	0.881	1463	2634
10 X 泌尿生殖系の疾患	4.31	7.85	1.823	4110	2863	0.697	361	731
12 XII 皮膚及び皮下組織の疾患	4.17	8.15	1.955	2272	2350	1.035	474	966
13 XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	4.02	7.77	1.934	2443	2281	0.934	1316	2491
14 XIV 先天異常	4.04	8.43	2.087	2850	2622	0.920	51	123
15 XV 周産期に発生した主要病態	11.00	0.00	0.000	2914	0	0.000	1	
16 XVI 症状徴候及び診断名不明確の状態	4.33	8.20	1.892	2491	2238	0.898	640	853
17 XVII 損傷及び中毒	3.64	7.74	2.128	2455	2484	1.012	209	295
00	3.48	6.82	1.960	3751	1739	0.463	23	22
その他	3.91	7.04	1.801	2666	2038	0.764	151	233

(注1) 種類K/件は、K市の1件当たり薬剤の種類、点数K/種は、K市の1種類当たり点数。

(注2) 大分類の00は傷病分類未コード化、その他は不明。

表4 疾病数別薬剤料

疾病数	種類K/件	種類Z/件	比	点数K/種	点数Z/種	比	件数K	件数Z
合計	3.42	5.83	1.706	2395	2040	0.852	4341	6238
1	2.20	2.87	1.301	1694	1550	0.915	791	694
2	2.64	3.88	1.466	1956	1438	0.736	852	995
3	3.01	4.39	1.460	2103	1580	0.751	789	984
4	3.50	5.24	1.497	2298	1653	0.719	625	895
5	4.13	5.94	1.440	2762	2008	0.727	450	727
6	4.56	6.93	1.518	2763	2060	0.746	281	535
7	4.84	7.86	1.622	2530	2384	0.942	186	394
8	5.53	8.09	1.464	3483	2400	0.689	123	273
9	6.18	9.63	1.558	3130	2468	0.789	98	225
10	6.18	10.78	1.743	3196	2305	0.721	55	134
11	6.15	9.77	1.588	3053	2626	0.860	33	122
12	7.04	12.27	1.742	1691	3973	2.350	24	79
13	6.06	11.57	1.908	4039	2528	0.626	16	53
14	9.60	12.15	1.266	4520	2900	0.642	10	33
15	6.83	13.86	2.028	2842	2558	0.900	6	43
16	7.00	14.88	2.125	1749	3423	1.958	1	16
17	5.00	15.40	3.080	616	2617	4.249	1	15
18以上	0.00	16.14	0.000	0	2024	0.000		21

表5 日数別薬剤料

日数別	種類K/件	種類Z/件	比	点数K/種	点数Z/種	比	件数K	件数Z
合計	3.42	5.83	1.706	2395	2040	0.852	4341	6238
1	2.78	3.73	1.341	1892	1294	0.684	1581	2011
2	3.48	5.34	1.534	2854	2241	0.785	1393	1894
3	4.10	6.69	1.631	2706	2019	0.746	559	802
4	4.23	7.47	1.764	1793	1883	1.050	228	460
5	4.35	8.61	1.980	2073	1880	0.907	118	220
6	3.50	7.61	2.174	1089	2228	2.045	62	192
7	4.68	9.86	2.107	1796	2110	1.175	53	119
8	3.41	9.92	2.908	1438	2318	1.612	46	92
9	4.45	9.70	2.177	3107	2178	0.701	33	46
10	2.96	11.63	3.925	2485	2738	1.102	26	48
11	4.21	10.23	2.432	1917	2108	1.100	34	35
12	3.11	10.29	3.308	3663	2315	0.632	27	41
13	6.00	10.31	1.719	4970	5168	1.040	34	35
14	5.67	10.28	1.813	2891	2117	0.732	18	29
15	2.61	10.36	3.968	1732	2212	1.277	18	25
16	2.40	10.18	4.240	1350	1916	1.419	15	17
17	3.33	12.39	3.717	2589	1983	0.766	12	23
18	3.43	7.28	2.123	1396	5755	4.124	14	18
19	3.87	11.32	2.926	2225	2257	1.014	15	19
20	3.70	11.22	3.033	1547	2158	1.395	10	27
21	5.50	13.23	2.406	3008	2589	0.861	6	13
22	2.00	11.55	5.773	2067	1930	0.934	10	11
23	3.67	12.25	3.341	3884	8256	2.125	12	16
24	5.67	0.00	0.000	1678	0	0.000	3	
25	14.00	0.00	0.000	1591	0	0.000	1	
26	0.00	12.50	0.000	0	1878	0.000		2
27	0.00	27.00	0.000	0	2814	0.000		1
その他	4.00	3.98	0.994	1676	3541	2.112	13	42

表6 平均医療費の格差の要因

1件当り医療費の格差

要因	比	うち各要因の影響			その他の要因の影響		
		ラスパイレス	パーシェ	フィッシャー	ラスパイレス	パーシェ	フィッシャー
性別構成比率	1.291	1.002	1.002	1.002	1.289	1.288	1.289
年齢別構成比率	1.291	0.987	0.994	0.990	1.308	1.299	1.304
疾病B分類別構成比率	1.291	1.037	1.020	1.029	1.245	1.266	1.255
疾病数別構成比率	1.291	1.215	1.184	1.199	1.063	1.090	1.076
日数別構成比率	1.291	1.047	1.015	1.031	1.233	1.271	1.252
診療行為数別構成比率	1.291	1.234	1.245	1.239	1.046	1.037	1.041
行為平均額別構成比率	1.291	0.935	0.930	0.933	1.380	1.388	1.384
医薬品種類別構成比率	1.291	1.542	1.782	1.658	0.837	0.724	0.779
医薬品平均額別構成比率	1.291	0.953	0.936	0.944	1.354	1.379	1.367
疾病B×疾病数別構成比率	1.291	1.152	1.099	1.125	1.121	1.175	1.148
疾病B×疾病数別×診療行為数別構成比率	1.291	1.262	1.282	1.272	1.023	1.007	1.015
疾病B×疾病数別×医薬品種類別構成比率	1.291	1.324	1.323	1.323	0.975	0.976	0.976

1件当り医薬品額の格差

要因	比	うち各要因の影響			その他の要因の影響		
		ラスパイレス	パーシェ	フィッシャー	ラスパイレス	パーシェ	フィッシャー
性別構成比率	1.453	1.002	1.002	1.002	1.450	1.450	1.450
年齢別構成比率	1.453	0.984	0.995	0.989	1.476	1.461	1.468
疾病B分類別構成比率	1.453	1.027	1.027	1.027	1.415	1.414	1.414
疾病数別構成比率	1.453	1.252	1.194	1.223	1.160	1.216	1.188
日数別構成比率	1.453	1.046	0.996	1.021	1.389	1.458	1.423
診療行為数別構成比率	1.453	1.151	1.135	1.143	1.262	1.280	1.271
行為平均額別構成比率	1.453	0.972	0.984	0.978	1.495	1.476	1.486
医薬品種類別構成比率	1.453	1.677	1.785	1.730	0.866	0.814	0.840
医薬品平均額別構成比率	1.453	0.931	0.930	0.930	1.561	1.563	1.562
疾病B×疾病数別構成比率	1.453	1.157	1.166	1.161	1.256	1.246	1.251
疾病B×疾病数別×医薬品種類別構成比率	1.453	1.429	1.485	1.457	1.016	0.978	0.997

表7 平均医薬品種類の格差の要因

要因	比	うち各要因の影響			その他の要因の影響		
		ラスパイレス	パーシェ	フィッシャー	ラスパイレス	パーシェ	フィッシャー
疾病数別構成比率	1.706	1.153	1.130	1.141	1.480	1.510	1.495
疾病B×疾病数別構成比率	1.706	1.142	1.169	1.156	1.493	1.459	1.476

積算例

実績	比
ラスパイレス	1.480
パーシェ	1.510
フィッシャー	1.495
	1.153
	1.130
	1.141

疾病数	件数		種類	
	K	Z	K/件	Z/件
合計	4341	6238	3.42	5.83
1	791	694	2.20	2.87
2	852	995	2.64	3.88
3	789	984	3.01	4.39
4	625	895	3.50	5.24
5	450	727	4.13	5.94
6	281	535	4.56	6.93
7	186	394	4.84	7.86
8	123	273	5.53	8.09
9	98	225	6.18	9.63
10	55	134	6.18	10.78
11	33	122	6.15	9.77
12	24	79	7.04	12.27
13	16	53	6.06	11.57
14	10	33	9.60	12.15
15	6	43	6.83	13.86
16	1	16	7.00	14.88
17	1	15	5.00	15.40
18以上		21	16.14	16.14

表8 疾病B分類別薬剤料

B分類							4341	6238
	種類K/件	種類Z/件	比	点数K/種	点数Z/種	比	件数K	件数Z
B01 腸管感染症	4.46	8.32	1.865	1485	1657	1.116	78	134
B02 結核	4.85	7.26	1.496	1668	2309	1.384	40	97
B03 発疹を伴うウイルス疾患	4.02	6.26	1.555	2556	2989	1.169	41	27
B04 ウイルス肝炎	5.41	8.62	1.595	1844	3767	2.043	27	93
B05 その他のウイルス疾患	3.87	7.57	1.958	1264	1678	1.328	15	14
B06 性病	6.83	8.18	1.197	5098	2218	0.435	6	17
B07 真菌症	4.17	6.90	1.656	2139	2077	0.971	121	290
B08 その他の感染症及び寄生虫症	4.43	8.22	1.857	11237	1363	0.121	7	18
B09 胃の悪性新生物	4.93	7.43	1.508	3147	3525	1.120	95	86
B10 小腸、結腸及び直腸の悪性新生物	4.54	7.70	1.696	5652	2839	0.502	67	76
B11 気管、気管支及び肺の悪性新生物	7.15	8.06	1.127	3670	3375	0.920	13	34
B12 女性乳房の悪性新生物	3.83	5.60	1.464	13068	7249	0.555	23	20
B13 子宮の悪性新生物	3.33	4.36	1.307	2702	1514	0.560	3	14
B14 白血病	6.00	9.33	1.556	3587	13115	3.656	3	3
B15 その他及び部位不明の悪性新生物	4.27	7.51	1.759	5971	3727	0.624	134	142
B16 その他の新生物	4.14	7.35	1.773	3014	2503	0.830	160	234
B17 甲状腺の疾患	4.79	6.74	1.406	3581	2940	0.821	48	114
B18 糖尿病	4.15	6.81	1.640	2999	2885	0.962	472	785
B19 痛風	4.02	7.46	1.855	2117	2028	0.958	50	59
B20 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患並びに免疫障害	4.47	7.13	1.594	3042	2490	0.818	601	1092
B21 貧血	4.66	8.31	1.781	4725	3112	0.659	146	328
B22 その他の血液及び造血器の疾患	4.20	7.10	1.691	3334	2574	0.772	25	29
B23 老年期及び初老期の器質性精神病	4.45	8.27	1.858	3588	2405	0.670	20	45
B24 精神分裂病	6.42	4.13	0.644	3419	1740	0.509	12	15
B25 躁うつ病	4.25	6.33	1.490	2826	2047	0.725	36	66
B26 その他の精神病	4.25	9.21	2.168	2883	1901	0.659	4	28
B27 神経症	4.35	8.09	1.860	2242	2371	1.057	106	126
B28 アルコール依存	7.25	3.00	0.414	1913	1120	0.585	4	1
B29 その他の非精神病性精神障害	3.98	8.25	2.074	2412	2815	1.167	40	53
B30 精神薄弱	0.00	4.25	0.000	0	1066	0.000		4
B31 自律神経障害	3.70	7.38	1.993	2146	2172	1.012	57	69
B32 脳性小児麻痺及びその他の麻痺性症候群	4.56	8.38	1.839	2944	2663	0.905	43	71
B33 てんかん	3.89	6.65	1.707	2351	2905	1.235	19	34
B34 その他の中枢神経系の疾患	4.75	8.67	1.827	2675	2672	0.999	99	150
B35 末梢神経系の障害	4.44	7.87	1.772	3169	2217	0.700	147	164
B36 白内障	2.38	4.83	2.028	1770	1107	0.625	489	1081
B37 結膜炎	2.29	5.10	2.222	1457	851	0.584	214	612
B38 その他の眼の疾患	1.78	4.35	2.440	1340	796	0.594	496	996
B39 中耳炎	4.30	6.20	1.442	994	839	0.844	37	92
B40 その他の耳の疾患	4.63	7.24	1.562	1449	1543	1.065	103	208
B41 リウマチ熱及びリウマチ性心疾患	4.50	9.18	2.040	1547	2069	1.337	4	11
B42 高血圧性疾患	4.10	7.04	1.717	2570	2483	0.966	1336	1939
B43 虚血性心疾患	4.89	7.92	1.621	2640	2522	0.955	592	1023
B44 その他の心疾患	4.54	7.49	1.649	2707	2494	0.921	406	991
B45 脳出血	4.27	7.00	1.638	2527	2911	1.152	22	41
B46 脳梗塞	5.00	7.79	1.557	3284	2880	0.877	146	277
B47 その他の脳血管疾患	5.13	9.01	1.755	2871	2510	0.874	293	676
B48 じゆく状硬化症	3.00	8.28	2.757	2541	2317	0.912	340	571
B49 その他の循環系の疾患	4.71	7.84	1.663	2704	2931	1.084	218	421
B50 急性上気道感染	5.03	8.06	1.602	1509	1467	0.972	346	687
B51 急性及び詳細不明の気管支炎	5.73	8.93	1.559	1716	1847	1.076	110	244
B52 慢性副鼻腔炎	4.27	6.20	1.450	1287	1080	0.839	95	71
B53 アレルギー性鼻炎	4.39	7.28	1.659	1702	1690	0.993	154	271
B54 肺炎	5.63	8.19	1.456	3531	2344	0.664	24	47
B55 インフルエンザ	3.50	3.00	0.857	1033	1110	1.075	2	1

B分類	種類K/件	種類Z/件	比	点数K/種	点数Z/種	比	件数K	件数Z
B56 慢性気管支炎	5.92	9.08	1.535	2233	2432	1.089	87	118
B57 喘息	5.38	8.11	1.508	2570	2407	0.937	110	176
B58 その他の呼吸系の疾患	4.17	7.28	1.748	1755	2359	1.344	137	165
B59 歯及び歯の支持組織の疾患	6.09	7.18	1.179	2871	7070	2.463	11	11
B60 胃及び十二指腸潰瘍	5.37	8.19	1.523	2979	2933	0.985	366	487
B61 胃炎及び十二指腸炎	4.70	7.84	1.669	2448	2284	0.933	688	1468
B62 虫垂炎	2.00	0.00	0.000	2970	0	0.000	5	
B63 腸閉塞及びヘルニア	5.06	7.23	1.429	3632	2543	0.700	32	30
B64 肝硬変	5.26	8.60	1.636	4238	5605	1.323	35	50
B65 慢性肝炎	4.16	8.69	2.087	3005	2800	0.932	85	181
B66 その他の肝の疾患	4.30	8.15	1.896	3348	2456	0.733	274	611
B67 胆石症及び胆のう炎	4.83	7.37	1.526	3141	3169	1.009	83	164
B68 その他の消化器系の疾患	4.77	8.06	1.689	2502	2262	0.904	439	970
B69 腎炎及びネフローゼ	4.61	7.92	1.721	3367	2289	0.680	38	133
B70 腎不全	7.41	10.29	1.390	6170	4806	0.779	37	48
B71 泌尿系の結石	2.46	8.63	3.504	8766	5620	0.641	13	40
B72 その他の泌尿系の疾患	4.16	8.06	1.938	3688	2826	0.766	173	339
B73 前立腺肥大症	3.97	7.92	1.996	4386	2878	0.656	116	212
B74 その他の男性生殖器の疾患	3.81	4.95	1.297	5029	3612	0.718	43	19
B75 月経障害及び閉経期の障害	3.17	6.70	2.112	2360	2673	1.133	29	10
B76 乳房及びその他の女性生殖器の疾患	2.73	6.08	2.226	1567	1522	0.971	26	38
B81 皮膚及び皮下組織の感染	3.58	8.20	2.294	1776	2359	1.328	59	127
B82 その他の皮膚及び皮下組織の疾患	4.22	8.18	1.940	2318	2325	1.003	430	883
B83 慢性関節リウマチ(脊椎を除く)	4.84	10.21	2.111	2233	2253	1.009	55	77
B84 変形性関節省症及び類似症	3.28	8.40	2.561	2221	2175	0.979	259	366
B85 腰痛症	4.72	7.72	1.633	2574	2609	1.014	305	671
B86 その他の脊椎疾患	3.75	8.55	2.281	2226	2152	0.967	468	987
B87 肩の障害	4.26	8.41	1.976	2380	2424	1.018	108	345
B88 その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	4.15	8.46	2.038	2623	2242	0.855	661	1230
B89 心臓の先天異常	4.33	6.81	1.572	1294	3212	2.483	6	16
B90 先天性股関節脱臼	0.00	4.00	0.000	0	1265	0.000		1
B91 その他の先天異常	4.00	8.72	2.179	3075	2559	0.832	45	106
B93 その他の周産期に発生した主要病態	11.00	0.00	0.000	2914	0	0.000	1	
B94 症状、徴候及び診断名不明確の状態	4.33	8.20	1.892	2491	2238	0.898	640	853
B95 骨折	3.99	7.80	1.956	2675	2854	1.067	77	115
B96 脊椎を含む頭蓋内及び内部損傷	4.00	7.21	1.804	1830	3775	2.063	7	14
B97 熱傷	6.83	8.64	1.264	1328	1252	0.943	6	11
B98 科学物質の有害作用	4.33	8.14	1.879	1687	1996	1.183	3	7
B99 その他の損傷及び中毒	3.36	7.70	2.294	2362	2123	0.899	129	170
B00	3.48	6.82	1.960	3751	1739	0.463	23	22
その他	3.82	7.06	1.849	2705	2040	0.754	147	232

(注1) 種類K/件は、K市の1件当たり薬剤の種類、点数K/種は、K市の1種類当たり点数。

(注2) B00は傷病分類未コード化、その他は不明。